



思いやり週間 読み聞かせ

「みずいろのマフラー」の感想

12月5日から9日は、思いやり週間でした。「温かい聴き方・優しい話し方をしよう」という目標を掲げ、一週間を過ごしました。その中で、校内放送で絵本「みずいろのマフラー」の読み聞かせをして、人権について考える授業を行いました。2号に分けてその感想を紹介します。今号は、下学年の感想です。

1-1 M N

おわかれのところが、とてもかんどうしました。ともだちのことをかんがえるときには、「みずいろのマフラー」のことをおもいだしたいとおもいます。わたしは、「ごめんね。」や「ありがとう。」をヤスオくんみたいにいえるようにしたいです。

1-2 K K

ぼくは、ヨースケがかわいそうだとおもいました。ヤンチとシンちゃんは、ヨースケからマフラーをもらいました。ぼくは、ヨースケたちが、いつもともだちとよかったとおもいます。かなしかったです。

1-3 K H

ふくろをあけたら、ヨースケとおなじみずいろのマフラーがはいていて、ほんとうになかよしのともだちになったんだなあというのが、つたわってきました。

2-1 Y K

さいしょはシンイチとヤンチは、ヨースケのことをいじめていたけど、ヨースケのおかあさんにおこられてあそばなくなりました。でも、わかれるときに、ゲームソフトやカードをあげて、またなかよくなるばめんが、かんどうしました。

2-2 S K

シンイチくんとヤスオくんが、ヨースケくんにランドセルをもたせたり、いやなことをさせたりするのをやめさせたおかあさんは、話す時にこわかったと思います。うちの子に何をしているのか、何かわるいことをしたのか、毎日こうなのか、いじめをされているのかしんばいしたと思います。でも、ふたりがさいごにちゃんとあやまってよかったと思います。お話にかんどうしました。

「みずいろのマフラー」 あらすじ

ぼく（シンイチ）のクラスに転校してきたヨースケは、力が弱く、走るのも遅くて、算数も苦手。帰り道が同じぼくとヤンチは、いやな役をヨースケに押し付ける。その様子を見かけたヨースケのお母さんが注意したところ、2人はヨースケを避けるようになった。年賀状に「仲良くしよう」と書いたぼくだが、ヨースケはお母さんが亡くなり、転校することになる。

2-3 S O

いやなやくをおしつけても、どうしてヨースケは言うとおりにしたのかなと思いました。きっといつでも友だちでいたいから、言うとおりにしたんだなと思いました。シンイチとヤンチは、ヨースケのお母さんに言われて嫌なことをしちゃったんだなと思ったから、友達じゃないと思ってあそべなかったと思います。あやまろうとしたけど、ひっこしちゃったから、さびしいなと思ったのかなと考えました。みずいろのマフラーをして、ヨースケのことを思い出したんだらうなと思いました。ちょっとさびしいお話だなと思いました。

3-1 S S

わたしは、いやな役をおしつけられて、こまった顔をしている人の気持ちを考えたほうがいいなと思いました。自分もそういうことをされたらかなしくて、なきそうになるくらいだからです。わたしは、このような人をかなしませることをいじめだと思います。わたしは、人がいじめられていたら、助けてあげたいです。

3-2 K K

ずっと学校を休んでいたヨースケがひっこしてしまうときに、シンイチとヤスオが急いでアパートに会いに行ったところが、いんしょうにのこりました。2人はヨースケにゲームカセットやカードをあげて、ヨースケからもらったおそろいのみずいろのマフラーが3つあって、心がつながっているんだなと思いました。つらいことばかりだったヨースケがシンイチに「ありがとう」と言えたのがすごいと思いました。

3-3 N H

わたしが感動したところは、ヨースケが水色のマフラーをシンイチとヤンチにわたしたところでした。2人にいやなことをされていたけど、それでもいっしょにいられることがうれしかったから、2人に「ありがとう。」と言ったんだと思います。

わたしの中で、お友だちはみんな大切な友達です友だちです。だから、一人一人の友だちを大事にしていきたいと思えます。

別れの日、ヨースケは、2人に紙袋を渡す。そこには、ヨースケのお母さんが編んだ、ヨースケとおそろいの水色のマフラーが入っていた。それを手にして、2人は、「いつまでも、友達だからな。」と泣き叫んだのだった。